

議会だより (報告会特集号)

令和2年3月

No. 108

あっさぶ

題字は、認定こども園の相馬莉那さんです。



写真～上段：館地区、中段：鶴地区、下段：厚沢部地区

STOP!! ジャガイモシストセンチュウ



～日本一のブランド「あっさぶメーカー」を守ろう!～

議会報告会を開催

令和2年1月21日から23日の3日間、町内3地区（館・鶉・厚沢部）で開催した議会報告会について、各会場で寄せられたご意見等をお知らせします。

町民向けの議会報告会は今年で8回目となり、3会場で62名の出席がありました。

冒頭、鈴木議長が開会の挨拶をした後、両常任委員会が今年度実施した視察研修及び所管事務調査について報告を行いました。その後、議会や町に対する意見・要望がありましたのでその要点をお知らせします。



館地区 21日 館地域振興 センター

●道の駅の冬の売り場が寂しく感じます。

夏に売り場が不足するため広げるとその一方で冬がさらに閑散とするので、その点を考慮した対応が必要になると思います。（高田議員）

●道の駅のレストランの計画はどのようになっていますか。

明確には答えられませんがレストラン部門を入れる計画があります。今の予算では新たな駐車場とトイレを整備します。（高田議員）

●メークイン発祥の地にもかかわらず、なぜ長年商標登録がとれないのですか。

厚沢部のものだけを扱うのであればそれほど問題ありませんが、合併農協のため、他町のものと一緒にすることが一番の問題です。

まず農協に働きかけながら商標登録をとり、それからGI登録を目指したいと思えます。（中山議員）

●公営塾は違う場所で運営する予定はありますか。

公営塾には49名の塾生がいますが、教室が狭く、一度に授業ができないため、分けて授業を行っています。実際に見た限り手狭に感じるため、必要に応じた教室確保を町に要請しています。（上戸議員）

●小学校統合の方向性はどのようになっていますか。

義務教育学校が適しているかどうか等、教育委員会で様々な事例を参考にして検討しているようです。あくまでも地域住民の意見を聞いて行うと思います。（鈴木議長）

●厚沢部ではベトナム、カンボジア実習生や農業アルバイトを受け入れています。労働力確保が問題となっており、冬場の労働力確保についてどのように考えていますか。

農業委員会や農協でインターシップ受け入れについて、積極的なPRが必要だと思えます。（佐々木副議長）

●地域でお嫁さんをもらえない方がいるのですが。

結婚する気が無い若者が増えている状況です。若者に結婚して貰いたいという願望は持っています。（山崎孝議員）

●去年の新聞に館中学校グラウンドについての記事がありました。最終的に貸したのか売ったのか教えてください。

グラウンドに車庫を建てることに反対ということではなく、手続上、議会の承認を得て議決をして物事を進めることが道理だと思いい、調査権等を求めました。議決では売ることになりました。（佐々木副議長）

●厚沢部会ではどのような活動をしていますか。



故郷のことを忘れないでほしい、思っていてほしいという熱い気持ちで各厚沢部会ができました。アンテナショップの宣伝やふるさと納税等、町にとって色々な恩恵があると思います。

函館厚沢部会には、館城跡祭り、うずら温泉祭り、夏祭りに毎年来ていただいています。(鈴木議長)

● 昨年のカボチャのキュアリング試験はどのような結果でしたか。

館中学校で8つのコンテナを使って試験したうち、半分ほどが腐ってしまったので通気性を良くして今年も試験するようです。(佐々木副議長)

● デマンドバスの今後の展望はどうなっていますか。

地域通貨を使って、個人がバスを呼ぶというシステムを全国で展開するための見本として業者が行ったものであり、事業費等は提案されておらず、具体的にはこれからになります。(高田議員)

● 新幹線のトンネル工事が出た土を厚沢部に持って来ようですが、議会・町としてどのようにして決まったのですか。

鉄道建設・運輸施設整備支援機構から町へ依頼がありました。八雲で出た土を捨てる場所がすぐに八雲で見つからないため、先に厚沢部にそれを捨て、その代わりに厚沢部で出た土を後で八雲に捨てるといった交換のような形になります。議会から町を通して住民説明会を開くように要請しました。(鈴木議長)



鶉地区
22日
鶉地区多目的
研修センター

● 議会だよりで、一般質問以外の質疑でも発言者の名前を知りたいです。また、町民にも知らせるべきだと思います。

これまで広報委員会で名前を記載するべきではないかと協議してきました。次の議会だよりでは名前を記載する予定です。(松村議員)

● レクの森のコーディネーターが不在ですが、条件を良くしないと応募がないのではないかと思います。

※厚沢部地区からも同様の質問ができました。

総務文教常任委員会で調査しており、町へ提言していますが、すぐに解決はできないと思います。新しく来た学芸員もいますので、より良い方向に向かってくれるのではないかと期待しています。(高田議員)

小学校統合について

● 小学校統合についてどのようになっていますか。また、厚沢部・鶉だけで統合するごとはありますか。

● 鶉地区がなぜ統合に反対しているのか教えてください。

● 昨年要望書を提出してから、議会で視察や協議をされており、また、教育委員会でも協議されているようです。この案件については、動き出しているため、引き続き議論して、より良い方向で子ども環境を整えていただきたいと思います。

子供に良い学校、高い学習能力を求める保護者が多数おられます。そのような背景を踏まえて、鶉で統合したいという要望があったのであれば、私はそれに賛成します。(香川議員)

来年一貫教育を始めようとしてもすぐできるものではなく、数年かかります。統合と

なると、さらに数年かかります。どんどん人が減って、子どもも減っていく中で、もう切ないから統合しようとしても私は遅いと思います。そのため、今から話し合っていくべきだと思います。(高田議員)



厚沢部地区
23日 町民交流センター
あゆみ

館の保護者から意見を聞く
と館小学校はまだ30人くらい
生徒がいて、あと4、5年は
維持できるようです。館地区
は保護者も地域の方もまだ統
合したいとは思っていません。

(山田議員)

議員だけで統合について話
し合った経緯はまだありません。
今後、確実に児童・生徒
は減ります。特に鶉は一番減
少幅が大きいと思います。こ
の問題については4月以降、

町から地域に対して色々な動
きがあると思うので、それを
踏まえて議員の考え方をまと
めていきたいと考えています。
(鈴木議長)



●総務文教常任委員会の調
査報告の中で、町に対して
「ちょっと暮らし事業で移住
定住の推進に努めていただき
たい」と要望したようですが、
町長が会議で「移住促進では
なく、交流人口の増加を目指
す」と発言しています。

この調査報告の時期がその
会議の前でした。町長がそ
ろ移住という考え方よりも
交流人口の方にシフトしてい
くべきではないかと考え方が
変わってきて、そのような発
言をしたのかと思います。
(高田議員)

●物産センターの売り上げは
どのようになっていますか。

観光協会の職員の給料は全
て売り上げでまかなっていま
す。若干ですが黒字状態で推
移しています。(高田議員)

●素敵な過疎づくりの本来
の目的は移住促進だったと思
います。経費はただではない
し、さらに介護事業も加わり
ました。人件費をまかなえて
いるのは分かりますが、いろ
いろな経費をまかなえている
ことにはなりません。そのお
金はどこから出ていますか。
株式会社というよりも役場の
組織の一部のように感じま
す。どのような会社なのですか。

人口が減っているため、移
住も含めて交流人口を増やそ
うと、ちょっと暮らし住宅を
整備しました。それを機会に
条例を制定し、人を呼び込ん
で色々な事業を起こす目的で
会社が設立されました。移住
だけでなく交流人口を拡大さ
せることが目的であり、商売
で採算を採る事業ではありません。
この会社は商売を目的
としている会社ではありません。
(鈴木議長)

●道の駅の改修計画につい
て、総務文教常任委員会の調
査で、町へ雨よけ等の整備を
要望しているようですが、見
通しはどのようになっていますか。

現段階の道の駅の整備は、
土地の購入、土地を平らにし
る、新しいトイレを建てるこ
ろまでです。駐車場や新し
い建物等の整備については、
別な予算を使うことになるの
で新年度の計画となります。
(高田議員)

●檜山管内沖に洋上風力発電
所ができると報道されていま
す。風力発電による低周波音
は山に跳ね返り、動きが予測
できません。町の問題として
議員も真摯に勉強し、住環境
と洋上風力発電についてしっ
かりと町民に情報を伝えてほ
しいです。

今のところ3つの業者がこ
の事業に取り組むために各地
域で説明会を開いています。
結果としてどのような影響が
あるかは分かりませんが、私
たちももう少し真摯に取り組
んでいきたいと思っています。
(高田議員)

●北海道新幹線のトンネル工
事で、鉄道建設・運輸施設整
備支援機構から水の検査はす
るが土壌の検査はしないと

われました。何十年も経つと
溜まった金属が基準値以上
なる可能性があります。この
ような場合、どうすればいい
でしょうか。

町づくり座談会では、町か
ら直接機構と話し合っただけ
という回答でした。そのた
め、機構と密に話し合った方
がいいと思います。
(山田議員)

町から機構に対応するよう
に伝えておきます。
(鈴木議長)





国営相和地区農地開発事業
について

鶴・厚沢部地区から国営相和農地開発事業受益者負担金についての意見がありました。

○鶴地区

●回収不能となった負担金3,800万円について、どのように思いますか。

●私は、平成23年まで一生懸命働いて払いました。相和の負担金問題を解決するために議会在バラバラではなく一つにならなければならぬと思います。それをよく念頭に置いて進んでいけば必ず良い答えが出て来て、このような不納欠損にならないと思います。

●不納欠損については、民事と同じで法律によってこのような結果になりました。自己破産と同じで遺産相続を放棄されて国の管理になりました。今後、また不納欠損が出るか出ないか議論する段階ではないと思います。

●滞納者と払った人の考えには大きな差があります。自己破産するのも個人の権利であり、それを第三者が道義的に干渉することはできないと思います。

償還は平成9年から始まって平成23年までの15年間で実施されています。負担金は町が一括して北海道に納入し、町が受益者から徴収するという取り決めでした。平成23年



時点で2億8,000万円ほどあった未収金のうち、現在は1億7,000万円まで徴収されました。不納欠損が発生した経緯は、何回も計画変更して事業費が高くなったこと、全て完了してから償還が始まるという国営事業の性質から、あまりにも年数が掛かりすぎたこと等により、結果として、町の立替払いが不納欠損となりました。特別委員会では引き続き調査していきます。(佐々木副議長)



私が議員になった時から、速やかに徴収するように訴えてきました。今残っている滞納者の数名は、自分の収入を考えないで工事を行った方もいると思います。また、それを認めた町の大きな責任に最終的にはなると思います。この事業は厚沢部の基幹産業である農業にとつては大いに有益な事業であったと思います。不納欠損をどうすると言われたが、はっきり言ってこれは不納欠損として処理するしか方法が無く、これにつ

いて、各議員が決算を認定するか不認定するかの2つに1つであると考えています。自己破産と亡くなって不納欠損になったことは違うと思います。あくまでも遺族の方が財産放棄をしており、受益者自身行った事業が適切な規模でなかったということが一番の要因だと思います。(鈴木議長)

○厚沢部地区

●新聞で3,800万円の不納欠損が出るとの記事が掲載されました。新任議員以外の各議員の考えを聞かせてください。

不納欠損が生じた原因は、国営事業が全ての事業が完了しないと償還が始まらないことや事業の計画変更、長期間の事業であったことだと思いません。徴収自体に問題がなかったか特別委員会調査しています。早期に徴収に努めるよう毎回町へ訴えてきました。より早期に対応すれば軽減できた部分もあるのではないかと感じています。(佐々木副議長)

負担金に対する町の姿勢が
良いか悪いかを判断するのが
議会だと思えます。町は条例
に則った徴収方法をしてい
て、職員は充分努力してい
ると判断しています。各議員
いろいろ考え方もあると思
いますが、私は間違った徴収
していかないのではないかと
思います。
(中山議員)

町としては出来るだけ多く
の未収金を徴収する方針で
す。もう償還が無理な方も
いると思えます。また、これ
だけ工事をやればどれだけ負



金が発生するか中身が分から
ないで事業を行った方もい
ると思えます。

今回の不納欠損について
は、この方が亡くなってしま
ったためどうしようもない状
況ですが、今後特別委員会
で協議して報告しなければ
なりません。
(松村議員)

滞納者の対応に関しては、
なぜもっと早くやらなかった
のかという印象がありました。
当時の土地の価値は、土地に
よっては5分の1ほどになっ
ています。事業開始当初、た
とえうまくいかなかったも
土地を売ればなんとかなるだ
ろうという思いがあったと思
います。しかし、土地が安くな
って売ったとしても払えない
という状況が今だと思いま
す。だから許せるということ
にはなりません、町が肅々と
行っている処理をみながら、
あとは私たちが判断してい
かなければならないと思いま
す。
(高田議員)

これだけの大きな額の不納
欠損は厚沢部町が始まって初
めてです。自分で本当に支払
えるか考えた結果、1回の工

事で終わらせた方もいます。
民間の感覚でいけば貸し倒れ
になるような感じで、町に非
が無いのかと言えば、適切に
不納欠損が出ないような徴収
をしていなかったのではない
かと考えています。徴収に対
して町が色々対応してきた
のは事実ですが、それをもっ
と早く対応していれば、少な
くとも3, 800万円という
不納欠損はもう少し少なく
なっていたのではないと思
います。そう考えれば、私の
考えは自ずと決まってくる
と思えます。
(鈴木議長)

不納欠損が生じた一番の原
因は町の徴収事務に問題が
あったことだと思います。も
う一つは土地の価格の下落が
あります。町民の財産が失わ
れたことは誠に残念で申し
訳なく思っています。今後も
不納欠損がでるのか分かりま
せんが、少しでも少なくする
ことが大事であり、これからも
対応していきたいと思いま
す。
(浜塚議員)

今回の不納欠損の一番大き
な要因は、町と受益者の約束
事が守られていなかったとい

うことです。町は納付につ
いて平成9年に条例を制定し
ており、全ての人の合意のも
とで償還計画を立てて、15年
間で払うと約束しました。そ
れがその通りにいかず、この
ような結果になりました。こ
れからどうなるか責任を追及
しながら対応していかねば
なりません。不納額をだす
ということは町民の血税を流
してしまうことになりま
す。今後また発生する可能性
があるという心配もしています。
監査委員という立場でしつ
かりと監査していきます。
(山崎議員)

編集後記

今年の正月は例年になく雪が
少なく、冬のスポートでもあ
るスキー場の積雪量が少なく、
道内各地の営業開始が遅れ、
スキーヤーをはじめ関係者の方
々は大変心配されたことと思
います。道南地区では2月にな
っても積雪がゼロの状態が続
いていますが、この後多少雪
が積もつたとしても降る量が
少なく、雪解けが進み、春は
早く来ると思っています。この
異常な暖冬で雪解け水が少な
く、基幹産業である農業に、
春の水不足や夏の干ばつによ
る農作物などの影響が心配さ
れます。また、地球温暖化・
異常気象により、日本中どこ
でも大きな自然災害が発生
する恐れがあります。これか
ら今以上に防災意識を高め、
町の防災マップなどを参考に
して被害に遭わないよう自分
の身は自分で守っていただ
きたいと思えます。
(ま)

議会広報編集特別委員会

委員長 松村 松雄
副委員長 上戸 昌行
委員 山田 克哉
委員 香川 直樹

【お詫びと訂正】

令和2年2月発行議会だよりNo.107
の表紙の題字氏名が尾山葵さんとな
っていましたが、正しくは尾山葵依
さんです。
お詫びして訂正いたします。